

# 性の多様性の理解を取り入れた「いのちのおはなし会」実践の試み

杏林大学保健学部：五十嵐愛奈, 田辺千乃, 星野みずき, 森田舞海, 猪爪琴音,  
加藤美乃里, 小林由佳, 横田秀香, 荒谷愛美, 井上裕美子, 若林沙来  
担当教員：佐々木裕子(保健学部母子看護学)



## 1. 活動の背景

幼い子どもたちへの性犯罪やいじめ、自殺など命を軽視した事件が社会問題化している。周りの大人たちが命や性について正しい知識とスキルを持ち、子どもたちを育てることが重要である。これまでおはなし会では、命の大切さを伝えるとともに、子どもたちが自分の体を知りプライベートゾーンを守ることができること、保護者や保育士が子どもたちの体や性の疑問に向き合うことの3点を目的に活動を続けてきた。しかし近年、男女の性にとらわれない多様な性のあり方が問われており、幼児期の子どもたちへの対応についても検討が必要である。

## 3. 対象および方法

対象：三鷹市および近郊の保育園の園児(4歳～5歳児)と保護者、保育士

方法：保健学部の学生(4～5名)によるパネルシアター、エプロンシアターを用いた保育園訪問型活動

## 2. 活動の目的

- ① 子どもたちが命の大切さを知り、自分や周りの友達を大切にできる
- ② 子どもたちが男女の体の違い、こころの性・体の性の多様性を理解できる
- ③ 周りの大人たちが子どもからの身体や性に関する質問に向き合い教育的関わりを考える機会となる

## 4. 過去3年間のおはなし会の活動実績

年	施設の内訳	子ども	保護者	保育士
2017	保育園9 児童養護施設1	245	35	35
2018	保育園10	239	35	36
2019	保育園3*	98	9	12

\* 2019年度は11園実施予定のところ3園のみ実施  
\* 医学部「地域体験学習」の1園を含む

## 5. 今年度の活動の3つの柱

- **いのちを大切にしよう** 一人ひとりが大切にされて生まれてきたからこそいのちは大切に。自分や友達、周りの人を大切にする。
- **プライベートゾーンは自分で守ろう** プライベートゾーン(男の子のおちんちん、女の子の赤ちゃんの通り道、おしり、胸、口)は自分だけの大切な場所で人に見せたり、友達のを覗いたりしない。誰かにプライベートゾーンを見られそうになったり触られそうになったら「やめて!!」と叫んで周りの大人に知らせ、子ども自身が性犯罪に巻き込まれないスキルを身につける。
- **からだとこころを大切にしよう** みんなそれぞれ心の色が違うこと、友達と好きなものや好きな人が違っててもよいこと、自分とは違う友達の心とからだを大切にする。

この小さな点がいのちの始まりの大きさだよ。



おかあさんが頑張って、そしてみんなが頑張ってうまれてきたんだよ。



お姉さんたちはこころとからだの勉強をしています。



お洋服を着てプライベートゾーンを守っているよね。



からだのお勉強のために特別にお洋服を脱いでいてもらいます。

こころはどうだろう？



こころは男と女の2つに分けることはできないんだ。お姉さんたちが一人ひとりちがう色の心を持っているように、みんなも一人ひとりちがった色のこころを持っているんだよ。だからお友達と好きなものがちがったり好きな人がちがっていいんだよ。

**6. まとめ** ここ数年、おはなし会に参加した保護者から「男女の性だけでなく多様な性を考慮した内容を検討する必要があるのではないか」との指摘があった。幼児期は自分の性を認識し始め、中には性別違和を感じる子どもがいるためである。そこで、シナリオに性の多様性の理解を加え、性=こころの多様性を虹色のハートで表現する工夫を行った。今後改良したシナリオでおはなし会を重ね、子どもたちや保護者の反応から子どもたちの個性を大切にしたいおはなし会か否か、評価していきたい。